

「事業名:福島復興知学の構築・展開・加速事業」 2020年度補助事業の実績・成果

東京大学 連携市町村: 楡葉町、飯舘村、広野町、いわき市、南相馬市

現地拠点: 双葉郡楡葉町下小塙麦入31楡葉町まなび館2階、相馬郡飯舘村佐須滑87(認定NPO法人ふくしま再生の会事務所内)

事業のポイント

1. 東京大学、福島大学(連携)、福島高専(共同申請)が協力して、福島復興知学講義と教科書を開発する。
2. 復興知事業の国際的認知度の向上を目指した国際ワークショップや国際交流事業を実施する。さらに、復興知学を発展させるための教育研究も推進する。

今年度の活動実績

①福島復興知学講義の開発

福島県浜通りでの教育研究活動で得た知見を体系化した福島復興知学講義を東京大学・教養学部で開講し、教育プログラムを開発した。さらに、この講義の内容をまとめた教科書を作成した。教科書制作では、複数の復興知事業・事業責任者からも寄稿してもらい、復興知事業における連携にもつながった。

②浜通り東大拠点を活用したイノベーション・コースト構想事業の長期的継続と拡大

浜通りに展開する東大の複数拠点をネットワーク化できた。地域の活性化と地元住民への情報発信の機能を持つミュージアムプロジェクトを推進した。

③国際化も視野に入れた、学内および大学等間の連携強化と教育研究の推進

イノベーション・コースト構想の重点領域に関する国際ワークショップを開催し、復興知事業を国際的に情報発信した。さらに、復興知に関する外国語資料の日本語化や復興知の情報発信システム開発なども行い、復興知学を持続的に発展させるための基盤を構築した。

今年度の成果

①復興知に関連する新しい学問領域の創成へ向けた着実な歩み:

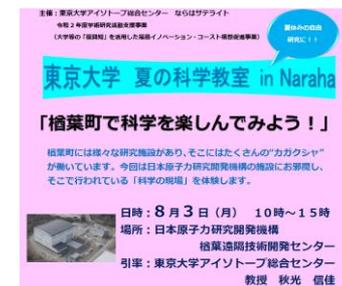
本事業に参加する大学・研究機関が蓄積してきた復興に関する多様な知識・ノウハウを体系化して復興知学を構築するための基盤を構築できた。これに関連し、楡葉町と新たな協定を締結した。

②国際化へ向けた取り組みと浜通りの持続的発展の基盤整備:

新型コロナウイルス禍下であってもオンラインツールを活用することで復興知を国内外に情報発信する基盤を構築できた。さらに、イノベーション・コースト構想の重点領域に関する国際ワークショップを開催することで、本事業が浜通り地区の持続的発展の基礎とすることができた。さらに、広野町との新たな協定を締結した。



福島復興知学講義



地元向け科学教室の様子